

研ぎ澄まされた「もの」には凜とした輝きがあります

私たちは、ものづくりを生業とする一人ひとりです。
どのようなものにも例外なく、きちんと作られた「もの」には確かな輝きがあります。
現れた作品の裏につくり手の精神の営みが確かに感じられるからです。

色々な「もの」が溢れるこの時代に、一つひとつ心を込めてつくった「もの」を
直にお客様にお届けしたいー。
そんな願いをもって皆さまのお越しをお待ちしています。



金澤漆器「能作」の仕事

百万石の栄華を極めた加賀藩三代目藩主
前田利常は、美術工芸の振興に力を注ぎ、
一六三〇年頃、京都から蒔絵の巨匠五十
嵐道甫を加賀藩細工所の指導者として招
きました。加賀蒔絵の伝統はこのときか
ら始まりました。

能作はその加賀蒔絵の高度な技を受け継
ぎ、作家志向を嫌い、あくまで用の美を
追求し、毎日の暮らしの中で使われてこ
その漆器を制作しております。常に使い
手の心を思い遣りながら、その思いを器
にこめてお届けしています。



付ける

硝子工房「びん」の仕事

ガラスの透明で力強い表情に出会い、深
求し始めたのがガラスとの付き合いの始
まりで、意図せず硝子の技術を身につけ
ることになりました。

日本の硝子は何か古めかしい昔の物と勝
手に思っていました。実際に自分が体
験し制作することにより、古くから伝わ
る伝統的技術の繊細さ・美しさに気付か
されました。

伝統に自分の色を織りまぜながら、手に
する方に新たな発見、楽しみを感じてい
ただけるようなものづくりを心掛けてい
ます。

削る



日本刺繍「紅会」の仕事

細のふしぎな魅力。一針一針の手の営
みが絹の美しさを更に引き出します。

技術の緻密さに留まることなく、糸づく
りから想いを馳せて仕上げられた一点一
点は世代をこえてお楽しみいただけるこ
とと実感しております。

つくり手と直に触れ合うこの機会に、「繡
いの世界」をお楽しみください。

「手は精神の出口」

紅会ではその理念を大切に、ものづくり
と日々向かい合っています。



繡う